

宮城県業務説明会

福祉

**Miyagi
Prefectural
Government**

福祉職の仕事

主に児童の保護その他児童の福祉に関する
相談・指導等

配属先

本庁又は地方機関（児童相談所等）

自己紹介 秋田県出身

H30.3月 県内大学院卒業

H30.4月～ 中央児童相談所 一時保護班

一時保護児童のケアワーク

R3.4月～ 北部児童相談所 家庭支援第二班

児童福祉司としてケースワークに従事

R6.4月～ 中央児童相談所黒川支所 家庭支援班

児童福祉司としてケースワークに従事

志望動機

なぜ公務員だった？

- ・ 東日本大震災による社会問題の顕在化
- ・ 公的な支援（児童相談所や社会的養護等）への関心

なんで宮城県庁を選んだ？

- ・ 学生時代に県内のこども福祉関係のボランティアやアルバイトで学んだことを社会へ還元
- ・ 福祉職のキャリアパスの多様性

担当した仕事

中央児童相談所 一時保護班

一時保護児童のケアワーク

※一時保護は、子どもの安全を迅速に確保し、適切な保護を図るため、又は子どもの心身の状況、その置かれている環境その他の状況を把握するために実施するものです。

担当業務

- ・ 一時保護所入所児童の支援
- ・ 一時保護所におけるこどもの権利擁護に関する業務改善

担当した仕事

北部児童相談所 家庭支援第二班

主に施設入所児童や里親委託児童の支援

担当業務

- ・ 家族再統合（親子関係再構築）業務
- ・ 里親委託推進業務など



大変だったこと

【一時保護所でのケア】

- ・虐待の影響を受けた子どもたちのケア
⇒支援者自身のケアも大切

【家族の再統合業務】

- ・児童相談所は虐待を受けた子どもを親子分離して一時保護し、その後状況によっては施設入所や里親委託をし、子どもの安全確保を行います
- ・そして、子どものケアをすると同時に、親が再び養育できるように親の養育支援に取り組んでいきます。親の困り感や家庭事情の辛さなど、親にも寄り添いながら虐待をしない子育てを模索していきます
- ・里親や施設に入所した子どもが、再び家庭に戻って再び家族生活をすることを「親子関係の再統合」といいます

やりがい、心掛けていること

こどもや家族の将来の人生・幸福に関する意義のある仕事
例) 分離した親と子の絆を紡ぎ直す
新しい大人（里親等）と子との絆を紡ぐ

「社会的養護のもとにいるすべての子どもに、その子にふさわしい、適切な時期に、思慮深い意思決定をする代弁者となる大人がひとりはいること」
「それによって、子どもができるだけ歩みやすい道のりで、途中良き仲間を得ながら、愛にあふれた場所にたどり着くこと」（ヴェラ・I・ファールバーグ）

1日のスケジュール

8:30 出勤

9:00 所内会議

12:00 昼休み

13:00
家庭訪問・来所面接・
施設訪問・電話対応等

16:00 帰庁
訪問記録作成 17:15 退勤

入庁前のイメージとギャップ

- ・ ケースワークだけでなく、ケアワークもある
- ・ 当番制の緊急対応業務がある
- ・ 事務処理、会議資料作成、記録作成業務が多い
- ・ 研修の機会が充実している

職場の雰囲気

- ・ 心理的安全性の高いチーム
⇒ お互いの支え合い
- ・ 若手職員や女性職員の割合が多い



働いて感じる宮城県職員の魅力

- ・ 研修体制の充実
- ・ 国の動向を踏まえた先進的な取り組み
- ・ 一つ一つのケースに丁寧に向き合うことができる

私の公務員試験対策

- ・ 社会福祉士試験対策と重なる
- ・ 面接に向けて自己理解を深める
- ・ ボランティアやアルバイトを通じて現場を知る

みなさんへのメッセージ

子どもや家族の人生に関わる大変な仕事ではありませんが、その分働きがいのある仕事です。
また、職場の研修やサポート体制も充実しています。
皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています！